

車いす使用者の公共的施設利用程度を把握するためのアンケート調査 (その2)

正会員 長尾 由美子 * 1 同 嶋田 拓 * 2
同 久保田 一弘 * 3 同 矢島 規雄 * 4
同 直井 英雄 * 5

車いす使用者 公共的施設 利用程度

研究目的

福祉環境の改善に伴い、今後ますます障害者の社会参加が予想される。しかしながら、平常時および非常時の建築計画において、車いす使用者の施設利用程度の増加に対しては、十分な対応が取られていない現状にある。このような背景を踏まえ、平常時・非常時の建築計画の基礎資料として、車いす使用者の中でも比較的行動的な人々に、公共的施設利用程度を把握するためのアンケート調査を行った。本研究では、比較的行動的な車いす使用者が、どのような公共的施設をどの程度利用するのかを把握し、健常者と比較することを目的とした。

調査方法

(1) 調査対象

車いす使用者として、日本車椅子バスケットボール連盟加盟、全国91チーム登録人数857名を対象とした。健常者として、アンケート調査の便宜のために東京理科大学建築学科学学生50人、卒業生90人を対象としたが、これら対象は車いす使用者に対して一般的な健常者の集団と考えている。

(2) 調査項目

車いす使用者、健常者の双方に以下の項目について質問した。
回答者の性別 年齢 就業状況 外出回数
外出時の交通手段 公共的施設の利用頻度
さらに、車いす使用者には以下の項目について質問した。
公共的施設利用上不便に感じる点(複数回答)
障害名 車いすの種類

(3) 調査方法

郵送によるアンケート調査とした。

(4) 調査実施時期

平成16年9月29日～12月31日に実施した。

調査結果と考察

回収結果、回答者の主な属性・外出傾向は、表1の通りである。『外出回数』は、車いす使用者、健常者ともほとんどの人がほぼ毎日外出していた。

公共的施設の利用頻度のうち、『ほぼ毎日利用』する割合が高

表1. 回答者の主な属性・外出回数

属性		車いす使用者	健常者
回収結果	回収人数	399人	115人
	回収率	46.6%	82.1%
性別	男性	83.2%	65.2%
	女性	16.8%	34.8%
平均年齢		35.8歳	28.5歳
就業状況	通勤	54.4%	51.3%
	自宅	14.5%	3.5%
	学生	7.8%	43.5%
	その他	23.3%	1.7%
外出回数	ほぼ毎日	86.0%	96.5%
	週2,3回	11.3%	3.5%
	月に数回	2.0%	0.0%
	あまり外出しない	0.0%	0.0%
外出時の交通手段	電車	3.3%	60.2%
	バス	0.3%	6.8%
	タクシー	0.0%	3.1%
	自家用車	95.8%	14.9%
	徒歩	0.0%	14.9%

い施設を車いす使用者と健常者と比較してみると(図1) 健常者では「駅」を利用する人が圧倒的に多いが、車いす使用者は「駅」をほとんど利用していなかった。これは、調査対象が日本車椅子バスケットボール連盟加盟チームの登録者であるため、比較的行動的な人々で外出時の交通手段として自分で車を運転する人が多いためと思われる。健常者では、ほぼ毎日「コンビニ・小売店」を利用する人が半数近くいた。

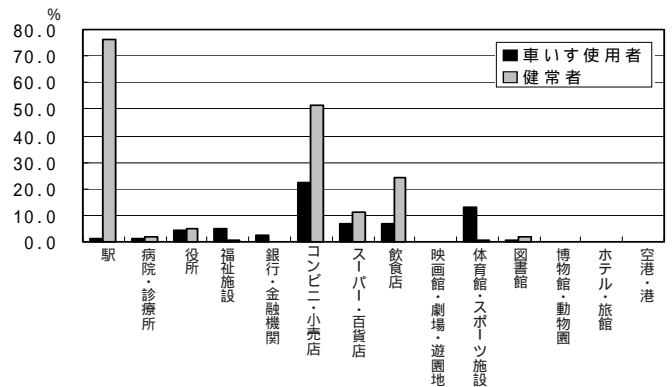


図1. 施設を『ほぼ毎日利用する』割合の比較

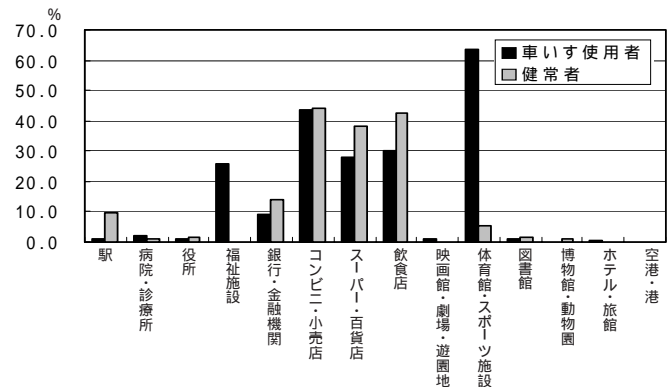


図2. 施設を『週2,3回利用する』割合の比較

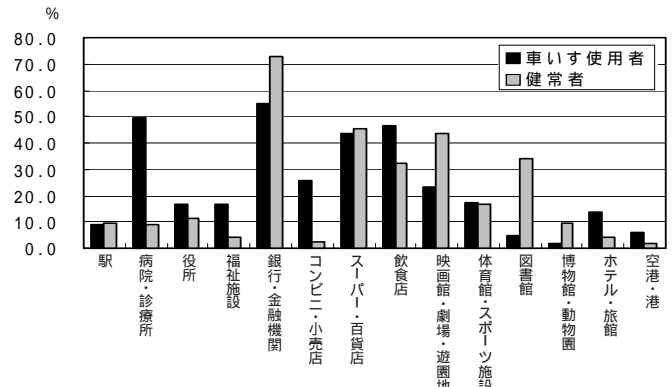


図3. 施設を『月に数回利用する』割合の比較

『週2,3回利用』する割合が高い施設を比較すると(図2)車いす使用者では「体育館・スポーツ施設」「福祉施設」の利用が多いが、健常者はほとんど利用していなかった。両者とも「コンビニ・小売店」「スーパー・百貨店」「飲食店」の利用が多かった。

『月に数回利用』する割合が高い施設を比較すると(図3)車いす使用者では「病院・診療所」の利用が多かった。健常者では、「映画館・劇場・遊園地」「図書館」を利用する人が多く、両者とも「銀行・金融機関」の利用が多かった。

『年に数回利用』する割合が高い施設を比較すると(図4)健常者では「病院・診療所」「体育館・スポーツ施設」「博物館・動物園」の利用が多かった。両者とも「役所」「ホテル・旅館」「空港・港」の利用が多かった。

『利用しない』割合が高い施設を比較すると(図5)車いす使用者では「駅」「図書館」「博物館・動物園」の割合が高く、健常者はほとんど「福祉施設」を利用していなかった。

図6は、車いす使用者が公共的施設利用上不便を感じる点(複数回答)である。『段差・入口・通路幅』に対して、不便と感じる件数が多い施設は「飲食店」「ホテル・旅館」「駅」であった。『車いす用トイレ』に対する件数が多いのは、「飲食店」「ホテル・旅館」「コンビニ・小売店」であった。『駐車場』に対する件数が多いのは、「駅」「銀行・金融機関」であった。また、アンケートの自由記入欄によると、「不便と感じる施設は、基本的に利用しない」ということから、『不便を感じない』件数が多くなっているものと思われる。

車いす使用者が、公共的施設を『ほぼ毎日』と『週2,3回』利用する割合を合わせて、『良く利用する割合』とし、施設別『利用上不便と感じる件数』との関係を見たのが、図7である。「図書館」「博物館・動物園」「空港・港」のように、バリアフリー化されている比較的規模の大きな公共的施設は、『利用上不便と感じる件数』が少ないが、ほとんど利用されていなかった。「コンビニ・小売店」や「飲食店」など、小規模で身近な施設は『利用上不便と感じる件数』が多いが、頻繁に利用されていた。「駅」は『利用上不便と感じる件数』が多く、ほとんど利用されていなかった。「交通バリアフリー法」によりバリアフリー化された都市部の駅では、車いす使用者の利用が増えていることから、今後は駅施設の改善にともない利用者は増加するものと思われる。それとともに、自宅から駅まで、駅から利用する施設までのバリアフリー化が課題となってくるものと思われる。

まとめ

車いす使用者と健常者への調査結果から、比較的行動的な車いす使用者の公共的施設利用程度は、「駅」「体育館・スポーツ施設」「福祉施設」等の特殊施設をのぞき、健常者と大差なく同じような利用傾向であることがわかった。

高齢者の車いす使用者など、行動パターン別公共的施設利用程度調査を行い、最終的な利用程度を予測することが今後の課題である。

最後に、アンケートに御協力頂いた日本車椅子バスケットボール連盟に心から謝意を表します。および、本研究の遂行にあたり、平成16年度卒研究生末藤雅章氏、田村浩治氏の協力を得た。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 長尾由美子 「車いす使用者の公共的施設利用程度を把握するためのアンケート調査」 日本建築学会 2004 年度大会学術梗概集
- 2) 「わが国の身体障害児・者の現状」平成13 年身体障害児・者実態調査結果報告 / 障害者福祉研究会 編集

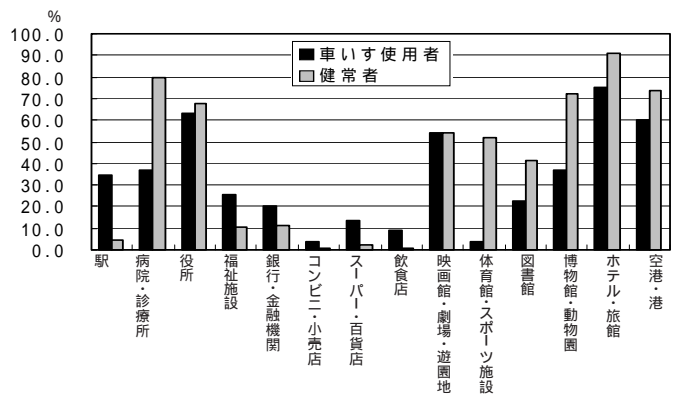


図4. 施設を『年に数回利用する』割合の比較

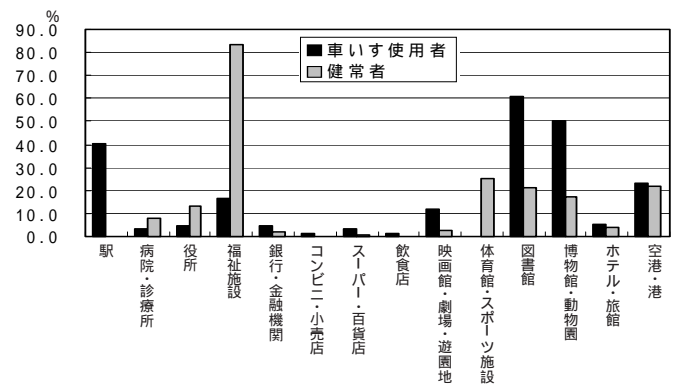


図5. 施設を『利用しない』割合の比較

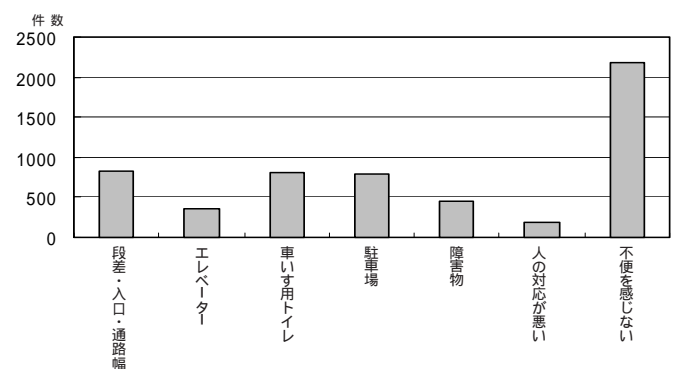


図6. 施設利用上不便を感じる点

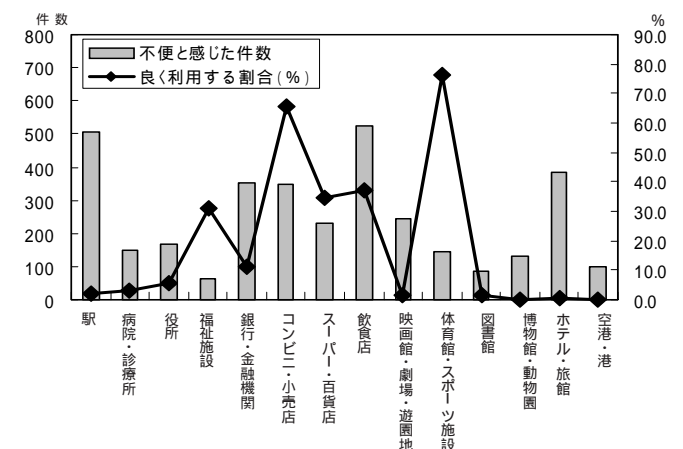


図7. 施設別『利用上不便と感じる件数』と『良く利用する割合』との関係

*1 当時東京理科大学 大学院生 工修
 *2 株式会社明野設備研究所 工修
 *3 東京理科大学 補手 工修
 *4 当時東京理科大学 助手 工修
 *5 東京理科大学 教授 工博

*1 Graduate Student, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Univ. of Science, M.E.
 *2 Akeno Fire Research Institute, M.Eng.
 *3 Research Assoc, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Univ. of Science, M.Eng.
 *4 Research Assoc, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Univ. of Science, M.Eng.
 *5 Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Univ. of Science, Dr.Eng.